

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士 (教育学)	氏名	森 千 晴
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 家庭科教員養成における教科観の深化に関する研究 －他教科と比較する機会の導入－			
論文審査担当者			
主 査	教 授	鈴 木	明 子
審査委員	教 授	伊 藤	圭 子
審査委員	教 授	草 原	和 博
審査委員	准教授	木 下	博 義
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、家庭科教員養成における学部生や大学院生の教科観の変容を捉え、その深化を促す効果的な方法を実証的に明らかにすることを目的としている。そのために、家庭科と他教科を比較する模擬授業など種々の機会を設け、家庭科の教科観を「本質的な意義」、「独自性」及び「育成する資質・能力」の認識の3側面から捉えて成果を検証し、教科観の深化を促す効果的な方法を追究したものである。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、我が国の教育課程における家庭科の教科特性や役割を整理、追究するとともに、家庭科学習者及び家庭科教員の家庭科の教科観の現状と課題を検討した。また、家庭科教員志望学生の教科観の深化に効果的と考えられる他教科との比較を介在させた3つの方法を先行研究から抽出した。</p> <p>第2章では、家庭科と理科、家庭科と社会科の共通点を認識させることを意図した2つの家庭科模擬授業を実施し、学習指導案検討を通して学生間交流を行い、3教科の学生の家庭科観の変容を捉え、模擬授業及び学生間交流の効果を検証した。</p> <p>第3章では、大学院生に協力を得て、エネルギー問題を共通テーマとした「現代社会」、「物理基礎」及び「家庭基礎」の模擬授業案を作成し、家庭科教員志望学生を対象に授業を実施し、3教科を比較・検討する機会を設けることによる教科観の変容を捉え、模擬授業の効果を検証した。</p> <p>第4章では、他教科との比較を通じた共通点や相違点の認識と、家庭科の本質的な意義や独自性の探究を組み込んだ大学院における授業が家庭科専修大学院生の教科観に及ぼす影響を明らかにし、教員養成における教科観の深化のための効果的な方法を追究した。</p> <p>終章では、第2、3、4章で検証した教科観の深化を促す家庭科と他教科を比較する方法の効果を整理し、各方法を用いる適切な時期や対象等を検討した。</p> <p>このように、家庭科と他教科を比較する機会を設けることが、家庭科教員養成の学部生や大学院生の教科観の深化に効果的であることを明らかにし、社会科及び理科教員養成の大学生や大学院生についても、家庭科に対する教科観の変容と、自己の専攻教科に対</p>			

する教科観の深化を捉えた。また、本研究において検証した、家庭科と他教科を比較する方法は、①各教科の共通点や相違点を整理する方法、②各教科の既存の授業案を検討する方法、③共通テーマを設定した各教科の授業案を作成する方法の3つであった。検証結果から、方法①はどの学年でも可能であり、方法②は指導者の視点で授業案を考察できる段階で実践することが適切であり、方法③は教育課程全体における家庭科への理解が進んだ段階で実践することが適切であると捉えている。

本論文は、次の3点で評価できる。

1. 我が国の中等家庭科教員養成における教科観の習得、深化に焦点を当て、家庭科の教科観を追究する意義について、学力観や教育課程、先行研究の成果と課題から整理し、教師が自身の担当教科の本質的な意義を理解し追究する能力、及び教育課程全体を俯瞰して自身の教科の独自性を捉える能力を併せて身に付けることが必要であること、さらに教科観を捉える3つの側面を提示したことは、多くの課題を抱える中等家庭科教員養成の課題を追究することに寄与するとともに、そのカリキュラム構築に示唆を与えるものである。
2. 家庭科と他教科を比較する3つの方法を構想、実践し、各方法による教科観の変容を実証的に検証し、各方法の成果と課題を俯瞰して、教員養成カリキュラムに組み込む効果的な時期や対象に言及し、教科観の深化への具体的な提言に至ったことは、家庭科教員養成にみられる課題の解決、実践への支援を充実させることに寄与するものである。
3. 大学院修了（専修免許取得）後近々の現職教員の教科観の変容、及びその背景の詳細を少数ながら捉えたことにより、教員養成カリキュラムや指導の課題の一端を明らかにしたことは、教員の長期的変容や成長を捉えることの意義を示唆するものであり、教員養成と教員研修とをつなぐ教師教育のあり方の問い直しにもつながると考えられる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 4 年 2 月 4 日